

## 英語教育実施状況調査の結果について

令和5年5月29日  
義務教育課

## ○結果と推移

本県の状況（例年12月1日現在）令和2年度は実施なし [%]

項目	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年
〈英検〉 3級相当 中学3年生の英語力 (CEFR A1 レベル以上)	61.2 (42.6) 1位	61.4 (44.0) 1位	85.8 (47.0) (1位)	86.4 (49.2) (1位)
準1級相当 中学校英語担当教師の 英語力 (CEFR B2 レベル以上)	58.7 (36.2) 1位	59.7 (38.1) 1位	64.8 (40.8) (1位)	65.3 (41.5) (1位)

※（ ）は全国平均値 順位は政令指定都市を除く

## ○生徒の英語力について

## 要因① コミュニケーションを重視した授業改善

英語の授業を英語で行い、生徒が意見や考えを英語で表現するなど長年の授業改善が背景にある。

## 要因② 外部検定試験 GTEC の活用

「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの技能を統合的に育成するために、令和2年度から中学3年生はGTECを受験している。その結果を分析し、教員を対象とした研修や、授業づくりに関する動画を配信し、教員の指導改善と生徒の学習改善につなげている。なお、外部検定試験の受験料については、平成28年度より、中学3年生を対象に全額補助している。

(平成28年～令和元年 英語検定 / 令和2年度～ GTEC)

## 要因③ 外国語指導助手 (ALT) の雇用

全中学校にALTを配置し、1・2年生で週1.5時間、3年生では、週1時間のティームティーチングによる授業を実施している。また、授業の内外を問わず、ALTの積極的な活用を実施している。

## 要因④ 小学校における外国語教育先行実施

平成30年度から段階的に小学校での外国語教育を実施し、31年度までの2年間を準備期間としたことで、学習指導要領に沿った小学校外国語教育へのスムーズな移行を行った。

## ○教員の英語力について

## 要因① 授業改善に向けた努力とALTの有効活用

各学校（配置校）にALTがいるため英語に触れる機会が多い。

## 要因② 福井県英語研究会

全ての中学校と高校の英語教員が参加する自主研究組織での授業改善に資する取組を継続している。

## 英語教育実施状況調査の結果について

令和5年5月29日  
高 校 教 育 課

### ○結果と推移について

本県の状況（例年12月1日現在） 令和2年度は実施なし [%]

<英検>	項目	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年
準2級相当	高校3年生の英語力 (CEFR A2 レベル以上)	56.0 (40.2) (1位)	58.4 (43.6) (1位)	59.6 (46.1) (1位)	60.8 (48.7) (1位)
2級相当	高校3年生の英語力 (CEFR B1 レベル以上)	CEFR B1 レベル以上の調査は 令和4年度より実施			26.0 (21.2) (5位)
準1級相当	高校英語担当教師の英語力 (CEFR B2 レベル以上)	91.4 (68.2) (2位)	93.9 (72.0) (1位)	96.9 (74.9) (1位)	95.4 (72.3) (1位)
1級相当	高校英語担当教師の英語力 (CEFR C1 レベル以上)	CEFR C1 レベル以上の調査は 令和4年度より実施			40.5 (22.5) (2位)

※ ( ) は全国平均値 順位は政令指定都市を除く

### ○生徒の英語力について

#### 要因① 4技能を重視した授業改善とパフォーマンス評価の実施

生徒が読んだことや聞いたことについて、意見や考えを英語で表現するなど、4技能統合型の授業作りに加えて、スピーキングテストやライティングテストのパフォーマンス評価を組み入れた授業改善を行っている。

#### 要因② ICT 機器の活用

話すことにおけるやり取りや書く活動、発話を録音・録画をする活動に、各教員が一人一台のタブレットを積極的に活用し、生徒の表現力の育成に努めている。

- ・「発話や発音の録音・録画する活動」 R3 85.2% ⇒ R4 95.8%
- ・「キーボード入力等で書く活動」 R3 81.5% ⇒ R4 95.8%
- ・「遠隔地の生徒等と英語で交流する活動」 R3 25.9% ⇒ R4 41.7%

#### 要因③ ALT の活用

県内すべてにJETプログラムおよび県独自任用しているALTを配置し、授業だけでなく、授業外での生徒との交流に積極的にALTを活用している。

### ○教員の英語力について

#### 要因① 自己研鑽の場の設定

ディベートの研修会を積極的に行い、教員がディベートについて学ぶ機会を設けている。論理・表現の授業を中心に、ディベートを積極に行うことで、生徒だけでなく教員の英語力向上にもつながっている。また、自主研究組織の福井県英語研究会で、中学校と高校の英語教員が連携を取り、授業改善を行うなど、自己研鑽の場となっている。

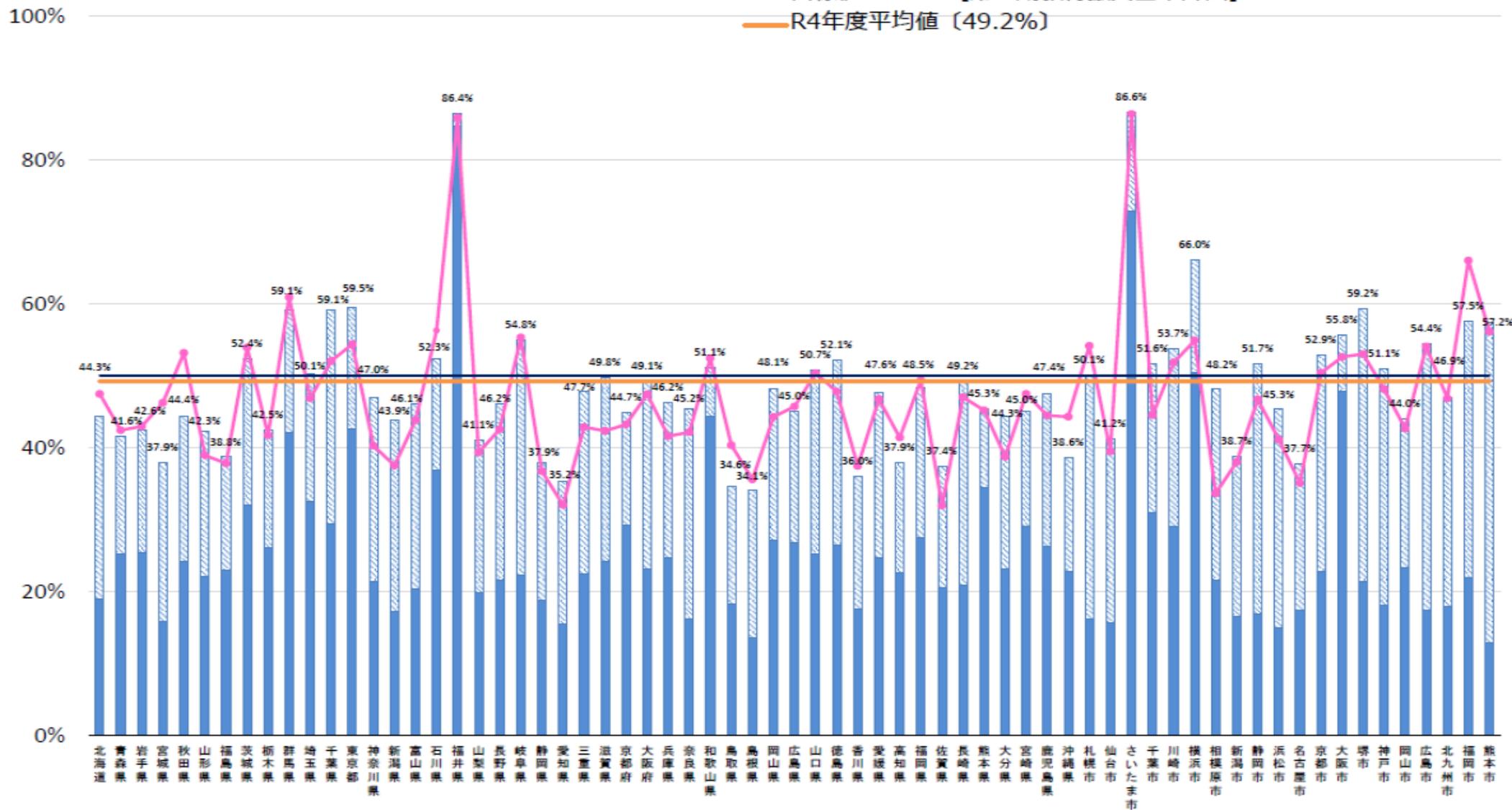
#### 要因② 教員採用試験における外国語資格の利用

教員採用試験で外国語資格による加点を行っている。

# 中学生の英語力(都道府県・指定都市別)

A1レベル相当以上

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合
- CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒の割合
- R3年度
- 目標値：50%【第3期教育振興基本計画】
- R4年度平均値(49.2%)

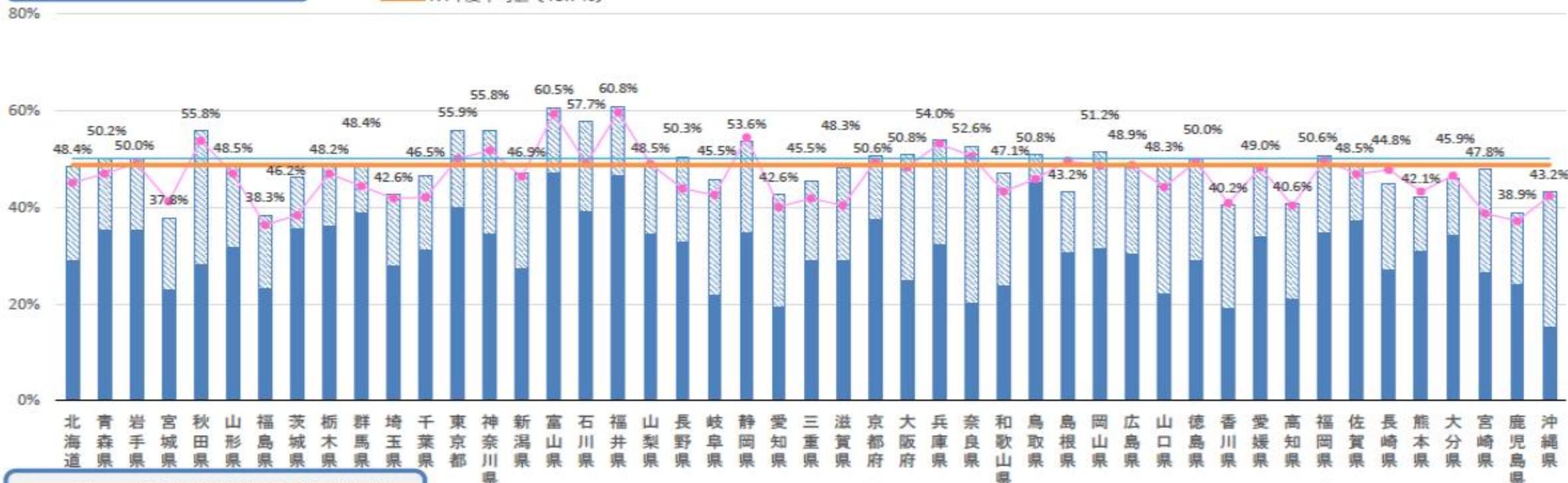


# 高校生の英語力(都道府県別)

## A2レベル相当以上

■ CEFR A2レベル相当以上を取得している生徒の割合  
 ● R3年度  
 — R4年度平均値 [48.7%]

▨ CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合  
 — 目標値：50%【第3期教育振興基本計画】



## B1レベル相当以上【新規】

■ CEFR B1レベル相当以上を取得している生徒の割合  
 ● R4年度平均値 [21.2%]

▨ CEFR B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合

